

1 調査名称：新潟市内都市交通特性調査

2 調査主体：新潟市

3 調査圏域：新潟市全域

4 調査期間：令和4年度

5 調査概要：

にいがた都市交通戦略プラン（都市・地域総合交通戦略）の達成状況を確認・分析し、施策のスパイラルアップを行うとともに、新型コロナウイルスの影響により人の移動がどのように変容したか把握・分析するため、本市に居住する5歳以上の者を対象とした交通実態調査を実施するもの。

## I 調査概要

### 1 調査名称：新潟市内都市交通特性調査

### 2 報告書目次

#### 第1章 業務計画

- 1.1 業務概要
- 1.2 実施方針
- 1.3 成果品の品質を確保するための計画
- 1.4 業務組織計画
- 1.5 成果品の内容・部数
- 1.6 守秘義務

#### 第2章 調査企画、準備

- 2.1 ゾーニングの検討
- 2.2 抽出率の設定
- 2.3 調査票作成（交通実態調査）
- 2.4 調査対象者の抽出、管理ファイル作成
- 2.5 調査日及び配布方法の設定
- 2.6 調査物件の作成

#### 第3章 調査実施

- 3.1 調査票の配布・回収
- 3.2 調査日の天候

#### 第4章 データ処理

- 4.1 回収結果の整理、入力
- 4.2 回収結果の点検、エラーチェック・修正、ジオコーディング
- 4.3 拡大処理
- 4.4 補正の必要性の検討
- 4.5 マスターデータ作成

#### 第5章 調査結果の基礎集計

- 5.1 交通実態調査の集計
- 5.2 ここ最近の行動の集計

#### 第6章 概要版（パンフレット）データの作成

- 6.1 概要版（パンフレット）データの作成

3 調査体制：新潟市単独で調査を実施

4 委員会名簿等：なし

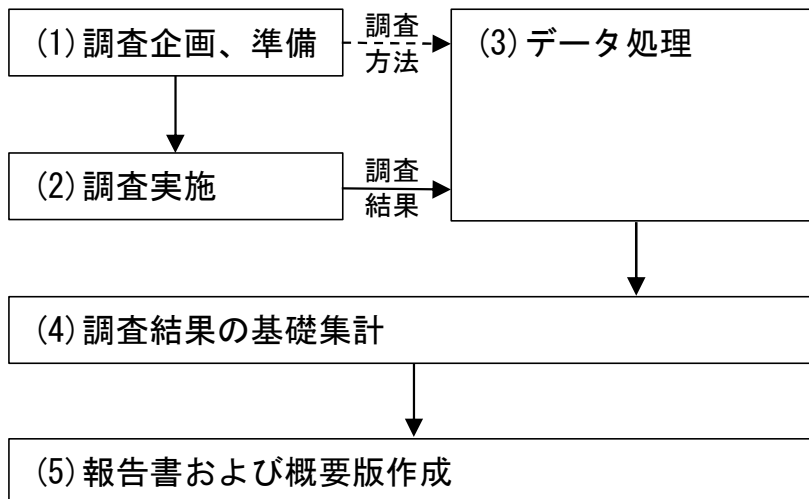
## II 調査成果

### 1 調査目的

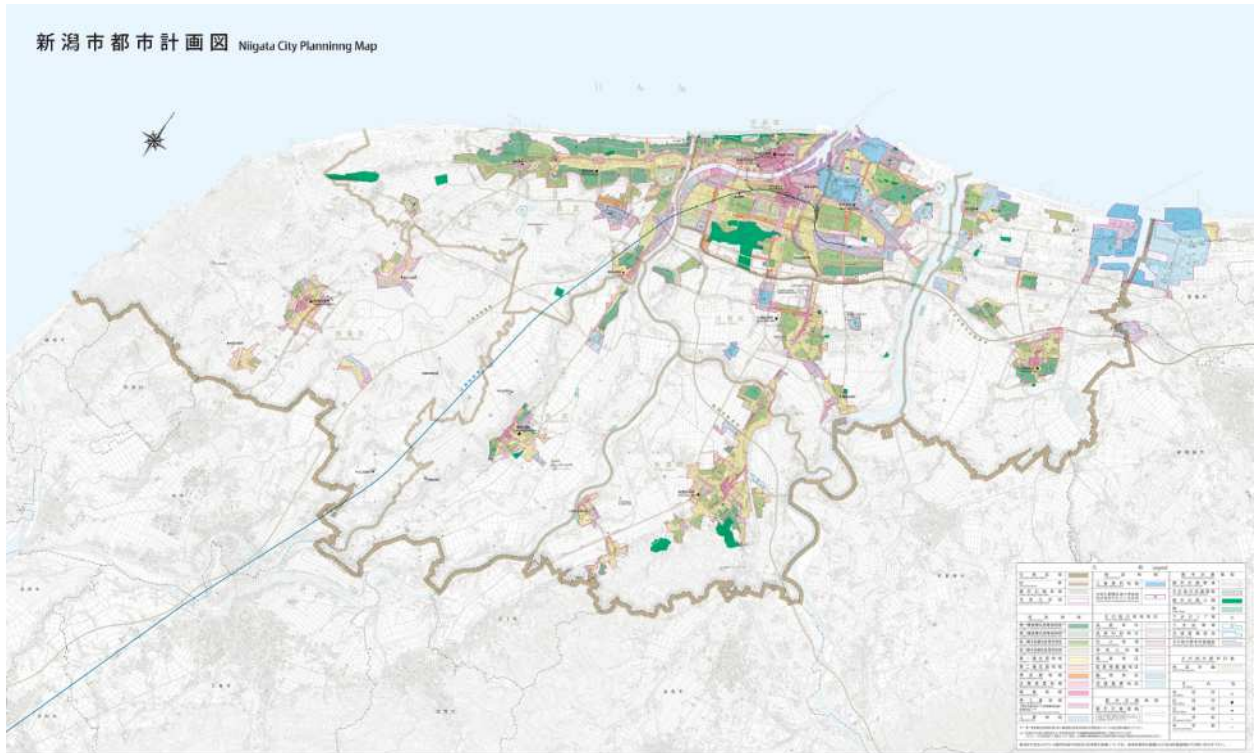
新潟市では、過度な自家用車利用からの脱却に向け、「にいがた都市交通戦略プラン」に基づき各種交通施策を展開しており、戦略的にこれらの施策をスパイラルアップさせていくためには、交通実態を適切に把握し、施策の実施効果の確認と分析を行うことが必要である。

また、「にいがた都市交通戦略プラン〔後期実施計画〕」や「新潟市地域公共交通計画」の策定に向け、現行計画の成果指標や施策の達成状況を確認するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変化している交通形態を踏まえた上で計画を策定する必要があることから、令和4年度において都市交通特性調査を実施する。

### 2 調査フロー



### 3 調査圏域図



S = F R E E

4 調査成果

# にいがたの人の動き

## 新潟市内都市交通特性調査の結果 [概要版]

### 都市交通特性調査の概要

都市交通特性調査とは、ある1日における新潟市内の人の動き（移動目的や手段など）をアンケート調査により把握し、市民の移動回数や外出率、移動目的・手段などをとりまとめたものです。

- ◆調査範囲 新潟市全域
- ◆調査対象 令和4年4月末日現在の住民基本台帳に登録される5歳以上の市民
- ◆配布世帯 19,600世帯（無作為による世帯抽出）
- ◆実施方法 郵送による配布、回収
- ◆対象日 令和4年11月15日(火)、16日(水)、17日(木)のいずれかの指定

5歳以上人口 (R4.4)	対象世帯数	対象個人数	回収個人数
750,087人	19,600世帯	41,369人	12,182人

抽出率	回収率
5.5%	29.4%





## 新潟市内都市都市交通特性 結果概要

本調査結果の概要を以下に示します。  
 少子高齢化の進展やコロナ禍の影響を受け、市民の移動特性に変化が生じていることを示唆しており、さらに詳細な分析を進め交通施策の展開に取り組んでいきます。

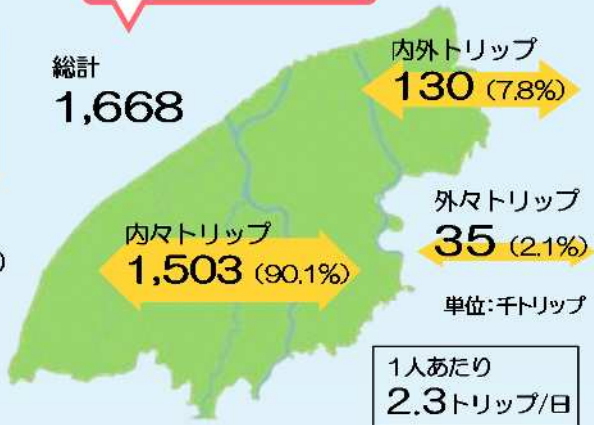
### 新潟市居住者の総トリップ数

- ・総トリップ数はコロナ禍の影響もあり、令和4年には減少しています。
- ・総トリップ数のうち、内々トリップが約9割を占めています。



新潟市居住者の総トリップ数

総トリップ数が減少!



総トリップ数の内訳

#### 用語解説

#### トリップとは..

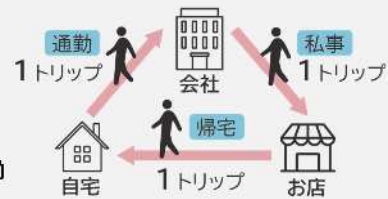
・人がある1つの目的をもって、ある地点から別の地点へ移動したときの単位。

・トリップは、移動の目的が変わるごとに1つのトリップと数える。

【内々トリップ】市内に出発地と到着地を持つ移動

【内外トリップ】出発地または到着地のいずれかが市内である移動

【外々トリップ】市内に出発地と到着地を持たない移動



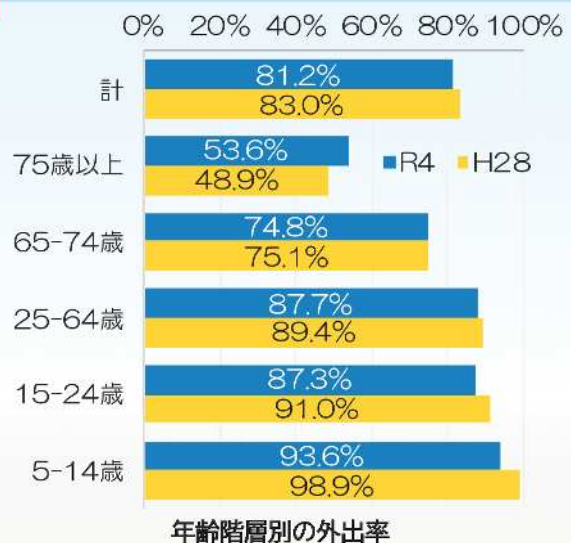
### 外出率

高齢者の外出率が増加!

- ・平成28年と比較すると、全体の外出率は低くなっているなか、高齢者の外出率が増え、元気な高齢者が増えていると言えます。
- ・新潟市は、他都市に比べると外出率が高くなっています。



外出率(他都市との比較)



年齢階層別の外出率

※1 全国都市交通特性調査による三大都市圏の平均値  
 ※2 全国都市交通特性調査による地方都市圏の平均値

#### 用語解説

#### 外出率とは..

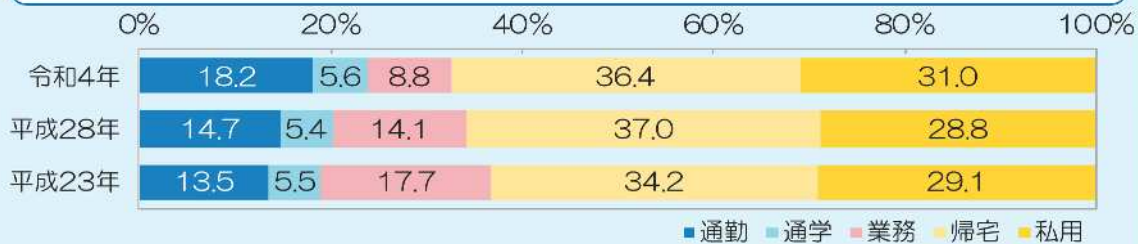
・ある1日において外出した市民の割合

## 新潟市内都市都市交通特性 結果概要

### 移動目的構成

通勤目的が増加、業務目的が減少！

- ・総トリップ数が減少する中、通勤・通学の必要なトリップの比率が増加しています。
- ・コロナ禍でリモート会議等の活用が増えたことで、業務が減少したと推察できます。



移動目的の構成

### 代表交通手段分担率

バス・自動車が増加、自転車・歩行者が減少！

- ・コロナ禍の影響もあり、総トリップ数が減少する中で鉄道やバスよりも特に自動車が選ばれる傾向が強くなっています。
- ・地方都市の中でも自動車の分担率が高く、その結果として、自転車や歩行者の分担率が低くなっています。



※3 全国都市交通特性調査による地方都市の平均値

※4 自転車を含む  
※5 徒歩を含む

目的別代表交通手段の構成

#### 用語解説

#### 代表交通手段とは・・・

- ・1つのトリップの中でいくつかの交通手段を利用している場合、利用した主な交通手段のこと。
- ・代表交通手段の集計上の優先順位は、鉄道→バス→自動車→二輪車→徒歩となる。

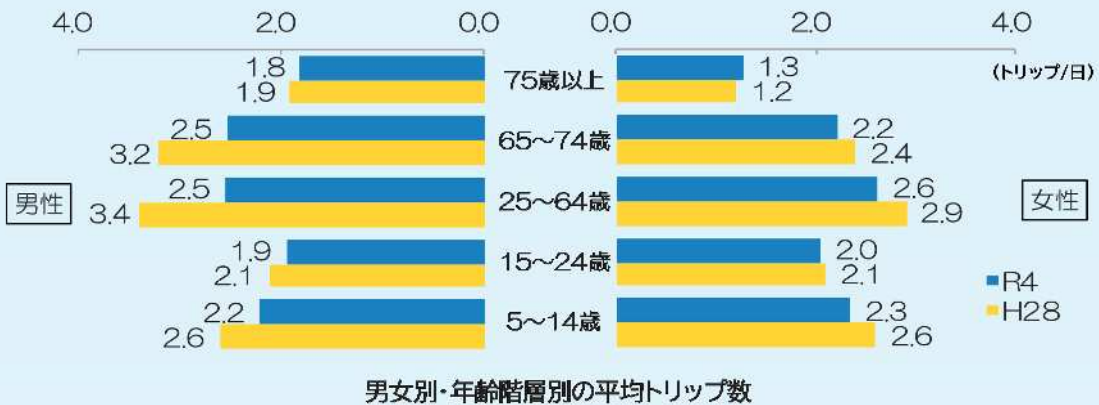




## 新潟市民の1人あたりトリップ数

平均トリップ数が0.4トリップ/日減少!

- 1人あたりの平均トリップ数は、2.7トリップ/日から2.3トリップ/日に減少しました。
- 男女別・年齢階層別にみると、平成28年はトリップ数が多かった男性の25～74歳の減少が大きくなっています。



## 5年前(コロナ禍以前)からの出かける回数の変化

出かける回数が減少!

- 5年前に比べて『出かける回数が増加した人』は1.4%と少ない一方で、『出かける回数が増えた人』は38.0%と多くなっています。
- この結果、外出率や1人あたりトリップ数が減少したものと考えられます。



5年前(コロナ禍以前)からの1か月に外かける回数の変化

## 新潟市民の在宅勤務の実施状況

在宅勤務はあまりされてない!

- 92.7%の人は在宅勤務を実施しておらず、平均すると1か月のうち在宅勤務をする日数は0.5日となっています。



1か月のうち在宅勤務をする日数

会社員・アルバイト等に限定して集計しています。